

氏名(本籍)	安藤 秀 (東京都)		
学位の種類	博士(体育科学)		
学位記番号	博甲第4447号		
学位授与年月日	平成19年3月23日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	ゴルフスイングの変容に関する技術発達史的研究 -新しいスイング練習法の構築に向けて-		
主査	筑波大学教授	医学博士	高松 薫
副査	筑波大学教授	教育学博士	阿江 通良
副査	筑波大学教授	博士(体育科学)	近藤 良享
副査	筑波大学教授	博士(体育科学)	朝岡 正雄
副査	筑波大学助教授		白木 仁

## 論文の内容の要旨

### 1. 研究目的

現在のゴルフ界では、指導者が体験に基づいて理想と考えているスイング類型を学習目標に掲げ、それを行っている時のコツを伝えるという方法で初心者指導が行われている。このために、初心者が学習目標として目指すスイング類型は指導者ごとに異なっていて、科学的に構築された指導法というものは存在しない。本研究の目的は、現時点で初心者に最適とみなされるスイング類型を特定し、その構造特性を明らかにして、ゴルフスイングを系統的に身につけさせる科学的指導法構築のための手がかりを提供することにある。

### 2. 方法および結果

上記の目的を達成するために、第Ⅱ章から第Ⅴ章までの4つの研究課題を設定した。

#### 【第Ⅱ章 ゴルフの基本スイングの類型化】

1920年代から2001年までの226冊のゴルフ指導書の中から、国内外で活躍した合計62名の著名なゴルフ指導者の指導書の記載内容について、著者ごとにスイングコンセプト表を作成し、これに基づいて調査項目ごとに著者間の共通点/相違点をまとめた。さらに、この資料に基づいてスイングコンセプトの分類を行ない、ゴルフ指導者が学習目標に掲げているスイングコンセプトは、〈リフトターンあり・I型〉、〈リフトターンあり・逆C型〉、〈リフトターンなし・I型〉、〈リフトターンなし・逆C型〉という4つのスイング類型に大別できることを明らかにした。

#### 【第Ⅲ章 ゴルフの基本スイングの系統発生】

上記の4つのスイング類型の違いについて、それぞれを学習目標に掲げている著者たちが活躍した年代、ゴルフ場と用具の発展という視点から検討を加えることによって、ゴルフスイングは〈リフトターンあり・I型〉→〈リフトターンあり・逆C型〉→〈リフトターンなし・逆C型〉→〈リフトターンなし・I型〉の順に発生してきたことを明らかにした。また、ゴルファーが上級段階になったときに求められる、高い弾道の飛球、低い弾道の飛球、右曲がりの飛球、左曲がりの飛球を打ち分けるといった視点から各スイング類型の発展

可能性を検討した結果、系統発生の視点から見て最も新しい〈リストターンなし・I型〉スイングが初心者の学習目標として最適であることを明らかにした。

#### 【第IV章 新しいゴルフスイングの構造特性】

従来のスイングプレーン理論を検討し、そこでは〈リストターンなし・I型〉スイングの腕とクラブシャフトの動きの説明に矛盾が生じていることを明らかにした。さらに〈リストターンあり型〉スイングと〈リストターンなし型〉スイングの代表的プレーヤーのスイングフォームの写真分析に基づいて、〈リストターンなし型〉スイングは、ダウンスイング前半部の垂直に近い平面、インパクトエリアで示される斜めの平面、フォロースルー後半部の垂直に近い平面の3つのスイングプレーンを複合した構造（コンバインドプレーン構造）をもっていることを明らかにした。続いて、各スイング類型が主として行われていた時期に活躍した代表的なプレーヤーのスイングフォームを「ターン動作」の視点から写真分析の方法を用いて比較することによって、ゴルフスイングは「下半身の移動」と「頭部の移動」という2つの要因の変化にともなって発展してきたことを示し、系統発生からみて最も新しい〈リストターンなし・I型〉スイングの構造特性を明らかにした。

#### 【第V章 新しいスイング練習法構築への提言】

1800年代から2005年までの著名なゴルフ指導書の指導内容を調査することによって今日までのゴルフスイングの指導法の変遷をまとめ、これに基づいて現在一般に用いられている指導法の問題点を明らかにした。続いて、上で明らかにされた「コンバインドプレーン構造」と「ターン動作」という視点に基づいて、〈リストターンなし・I型〉スイングの従来の指導法の問題点を解決できる新しい指導法を考案し、初心者に典型的な欠点をもつ2名の被験者に実際にこの指導法を用いて合計24回のゴルフスイングの練習を行わせ、その結果に基づいて本論で考案された指導法の有効性と問題点を提示した。

### 3. 結論

本研究では、はじめに、指導書に示されたスイングコンセプトを網羅的に調査し、技術発達史の視点から考察することによって、ゴルフスイングには4つの類型が存在すること、その中で〈リストターンなし・I型〉スイングが現時点では初心者の学習目標として最適であることを明らかにした。さらに、「スイングプレーン」と「ターン動作」という視点から各スイング類型の構造分析を行い、〈リストターンなし・I型〉スイングは「コンバインドプレーン構造」と「下半身と頭部の左への移動」という構造特性をもっていることを明らかにした。これに続いて、系統学習を用いてこの2つの構造特性を学習者に身に付けさせる新しい指導法を考案し、初心者にこの指導法を用いて指導を行ない、その結果を検討して、本論で考案した指導法が一定の欠点をもつ初心者のスイングフォームを修正して〈リストターンなし・I型〉スイングを習得させる可能性のあることを明らかにした。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、ゴルフの発生から今日に至るまでのゴルフスイングの変容を技術発達史の視点から考察し、今日では〈リストターンなし・I型〉というスイング類型が初心者に最適な学習目標であることを明らかにし、さらにこのスイング類型の運動構造の解明に基づいて新しい指導法構築の可能性を示唆した点で高く評価できる。

論文審査委員会では、本論で考案された新しい指導法はさらに多くの実践的な研究を通してその有効性が検証される必要があることが指摘されたが、本論はゴルフにおけるスイング指導法の構築に新たな視点を提供し、今後のこの分野の指導方法論発展に重要な足がかりを築いたという点で多大の貢献が認められる。

よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。